

イビデングループのCSR経営

IBIDEN WAY～イビデンの企業理念体系～

イビデンの長い歴史における、「幾多の困難を全員で乗り越え、イビデンを存続させてきた力」と「近年の飛躍的な成長を実現させた英知と活力」。これらを、世代や国籍を超えて受け継がれるように体系化したものが「イビデンウェイ」です。



イビデングループの企業理念 (MISSION)

私たちは、人と地球環境を大切に、
革新的な技術で、豊かな社会の発展に貢献します。

共有すべき行動精神 (SPIRIT)

誠実 : Trust through Integrity
和 : “Wa” Teamwork & Synergy
積極性 : Challenge with Passion
イビテクノの進化 : IBI-TECHNO innovation

To The Next Stage 110 Plan

イビデングループを取り巻く事業環境は激しく変化し、グローバルに展開する企業間競争は熾烈を極めていきます。

当社グループでは、環境の変化を乗り越え、次の100年も持続的な成長を実現するため、2018年度より始動する新たな5か年の中期経営計画「To The Next Stage 110 Plan」を策定しました。

人財育成を基盤に、既存事業の競争力強化と新規事業の立ち上げにより、安定成長を実現するとともに、全てのステークホルダーより信頼される会社に向け、ESG経営を推進していきます。

対象期間

2018年度～2022年度（5年間）

活動の柱

既存事業の競争力強化
新規事業の拡大
人財育成
ESG経営の推進

経営指標

設備投資額：18～22年度総額1,900億円
減価償却費：同1,900億円
研究開発費：連結売上高比率5%以上を目安に継続的に実施

本レポートは、2017年度までの中期経営計画「Challenge IBI-TECHNO 105 Plan」での、グローバルCSR経営の活動を中心に報告いたします。2018年度から、従来取り組んできたCSR経営をより進化させる形で、ESG経営の推進に向け、具体的な取り組みをスタートさせています。

CSR経営の考え方と推進体制

イビデングループのCSRは、「人と地球環境を大切にし、革新的な技術で、豊かな社会の発展に貢献します。」という企業理念に基づいています。事業を通じて、社会と信頼関係を構築できるように、経営の信頼性と透明性を高める活動に取り組み、当社グループが永続的に存在し、社会の発展に貢献することをめざしています。

CSR活動の方向性は、グローバル企業としての役割や世界トップのお客さまをはじめとするステークホルダーの要請事項を反映した「イビデングループ行動憲章」（以下「グループ行動憲章」という）で表し、私たちが進むべき姿としてグループ全体で共有しています。

イビデングループ行動憲章（2011年7月改定）

第1条 法令および倫理の遵守

各国、各地域の法令および倫理を遵守し、あらゆる形態の腐敗防止に取り組み、オープンで公正な企業活動を通じて国際社会から信頼される会社をめざします。また、個人情報・顧客情報をはじめとする各種情報の保護・管理を徹底します。

第2条 ステークホルダーとともに発展する会社

ステークホルダーとともに発展していく会社として、経営の透明性を高め、コミュニケーションを通じた信頼関係を構築します。また、良き企業市民として、地域に根ざした社会貢献活動に積極的に取り組みます。

第3条 お客さまへの感動の提供

お客さまに感動を提供するため、社会の将来にわたる要求・動向を正しく理解し、イビテクノを進化させることで、お客さまの満足が最大になる安心・安全な商品の創造やサービスを行います。

第4条 グローバル化に対応した経営

グローバル化に対応した連結経営を推進するとともに、企業活動を行ううえで、人権を含む各種の国際規範はもとより、各国、各地域の文化・慣習を尊重します。

第5条 地球環境との共存

すべての事業活動で地球環境との共存をめざし、環境と経営を両立する技術の開発と普及に努めるとともに、省エネ・省資源活動を積極的に進め、環境に優しい商品・サービスを提供します。

第6条 魅力的で活力にあふれる会社

魅力的で活力にあふれる会社をめざして、公平公正な評価が行われる人事制度と安全で働きやすい環境を柱に、多様性を尊重しあい、一人ひとりの能力が最大限に発揮できる、社員にとって働きがいのある企業風土をつくります。

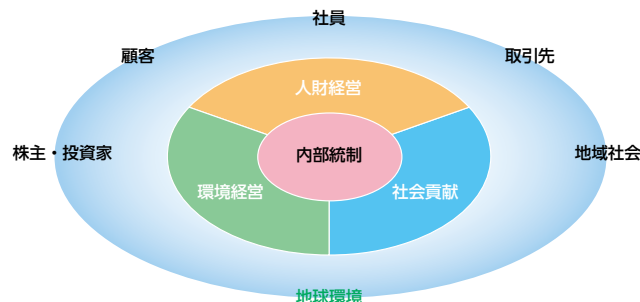
企業の社会的責任（CSR）の基本的な考え方

企業の社会的責任を果たすことで、当社グループが永続的に存在するとともに、社会の発展に貢献することをめざしています。当社グループのCSR経営の視点は、企業理念、グループ行動憲章に基づいて、中期経営計画の中で、内部統制、人財経営、環境経営、社会貢献の四つの領域で展開しています。四つの視点から、ステークホルダーの皆さまに対して、幅広い領域で活動を展開し、信頼関係を構築していきます。

<CSR方針>

責任ある誠実な行動が持続可能な事業につながるという認識を深め、経済的項目・環境的項目・社会的項目で、バランス良く責任を果たし、すべてのステークホルダーと共生することによって企業価値を向上させます。

<「CSR経営の実践」概念図>



CSR経営を実践し、ステークホルダーの皆さまと信頼関係を構築します。

グループ行動憲章と企業統治

グループ行動憲章の精神の実現は、経営層を含めて会社全体での取り組みであることを認識し、経営層の率先垂範のもと、社内ならびにグループ企業にその徹底を図るとともに、取引先にも促します。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を確立します。グループ行動憲章に反するような事態が発生したときには、経営層が問題解決にあたる体制をもち、その姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努めていきます。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にしたうえで厳正な処分を行います。

CSR推進の体制

当社は、2006年4月からCSR活動の推進部門としてCSR推進室を設置しています。当社グループ全体のCSRの方針や活動については、CSR推進室が各事業場、グループ会社と連携し、方向性を共有しながらCSRを推進しています。各部門、国内関連会社には推進責任者を任命し、所管部署におけるCSR活動・コンプライアンスの推進、コンプライアンス実践の監督、所属メンバーに対する教育訓練の実施、所管部門におけるコンプライアンス違反リスクの改善と報告などの役割を持たせています。推進責任者が参集するCSR推進責任者会議を、2017年度は7月に開催しています。会議の中で全社での推進項目と進捗状況を確認し、各事業場、グループ会社での推進活動の事例を共有しています。海外グループ会社は、CSR推進室と定期的な会議体を持つことで全社の方針を共有し、地域の特性や各社の課題に合わせた活動を推進しています。

グループ行動憲章の活動マネジメント

グループ行動憲章は、企業理念体系イビデンウェイのもと、CSR経営を実践していくうえで、国際的な動向、外部ステークホルダーの要請事項を反映し制定しています。国際的な共通理解として、ISO26000のガイダンス規格や、国連グローバルコンパクトの中で求められる企業としての責任、また当社は所属していませんが、電子業界団体RBAの定める行動規範を、当社もサプライチェーンの一部として尊重して内容に反映させています。さらに当社が所属する日本経団連の企業行動憲章など、日本国内のイニシアチブが重視している項目についても評価の上、反映し制定しています。

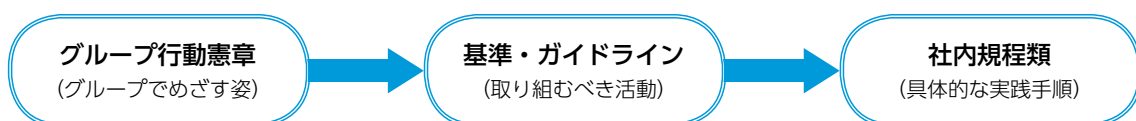
これらの考え方を具体的な活動に展開するために、国際的な基準や外部機関からの要請・評価項目などを踏まえて、会社としての対応、一人ひとりの活動、取引先に対しての展開と、三つのフェーズを分けて活動を進めています。

会社としてマネジメントすべき項目は「イビデン社会的責任管理基準（以下「社会的責任管理基準」という）」にまとめています。社員一人ひとりに対しては、具体的な実践行動の基準を「イビデン社員行動基準（以下「社員行動基準」という）」としてまとめています。社員行動基準は一人ひとりのコンプライアンス行動の指針で、グループ会社でもこれに準じて独自の社員行動基準を作成しています。また、取引先に対しては、「イビデングループお取引先さまCSRガイドライン（以下「CSRガイドライン」という）」を制定し、基準の説明と実態の調査や監査を通じて遵守の指導を行っています。

これら三つの基準・ガイドラインの作成に当たっては、CSR推進担当部門が案を作成し、経営層の参加する経営会議で審議の上、発行されています。これらをイビデンマネジメントシステム（以下「IMS」という）の中で社内規程や要領など、具体的な実践手順に落とし込み、運用することで、常にしくみと活動レベルの向上を進めています。



イビデン社会的責任管理基準
(2017年8月第3版)



それぞれの活動の詳細は、次のページを参照ください。


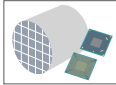



社会的責任管理基準、社員行動基準…………… P13 「コンプライアンス推進活動」

CSRガイドライン…………… P17 「サプライチェーンでのCSRマネジメント」

ステークホルダーとの対話・協働

当社グループは、地域に電力を提供する水力発電事業からスタートし、地域社会の皆さまをはじめ、多くの方々に支えられてきました。現在もさまざまな場面で、ステークホルダーの皆さまとコミュニケーションの場をもち、当社グループに求められている期待や要求を確認しています。コミュニケーションの結果得られた期待や要請事項を、当社を中心とするサプライチェーンの中で活動に取り組んでいくことが、ステークホルダーの皆さまとの信頼関係の構築と持続的な発展のために重要であると考えています。

■主なステークホルダーとのコミュニケーション一覧（2018年3月末現在）

| ステークホルダー | | コミュニケーション例 | | 主な対応部門 |
|----------|---|---|--|--|
| 社員 |  | 国内外37社(連結対象)のイビデングループの社員は15,574人です。私たちは、一人ひとりの創造性と個性を尊重します。 | 労使委員会、教育研修、評価面接 安全衛生委員会 コンプライアンス相談窓口 | P22~26 P28 P15 人事・総務部 環境安全衛生部 CSR推進室 |
| お客さま |  | 電子部品からセラミック製品、建材製品まで、革新的な技術に基づく多彩な製品とその品質で、お客さまに貢献します。 | 顧客満足度向上活動 CSR関連調査への情報提供 行動規範監査 | P55 P6 営業部 (各事業部門) CSR推進室 |
| お取引先さま |  | 国内、海外に事業を展開するイビデングループは、数多くのお取引先さまから調達を行っています。 | 取引先CSR説明会 安全衛生推進会 CSR調査、監査、取引先コンプライアンス通報窓口 | P17 P29~30 P17~18 グローバル購買部 環境安全衛生部 CSR推進室 |
| 地域社会 |  | 世界18カ国に主要な拠点を持つ当社グループは、各国・地域の文化、風土に合わせたグローバルな企業市民活動を行います。 | 自治会との定期交流会 社会貢献活動 | P34 P50~54 各事業場 人事・総務部 |
| 株主・投資家 |  | イビデンの発行済株式総数は約1億4千万株で、株主数は、28,799名となっています。 | 株主総会 投資家説明会 SRI調査機関への情報提供 | P10 P6 人事・総務部 経営企画部 CSR推進室 |

第三者機関の診断と対応

外部評価機関調査の活用

企業価値を測る材料に、企業の収益性などの業績・財務状況だけでなく、環境、社会面やガバナンスなどの側面を考慮して、企業に投資を行うESG投資が近年重視されています。当社は、SRI（社会的責任投資）評価機関などの外部評価の分析を行い、当社のギャップを抽出し、改善が可能な項目を、関連する部門の活動に展開しています。

2017年、FTSE Russell社*1により構築された「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄となりました。また、社会的責任投資（SRI）の代表的な指標である「FTSE4Good Index Series」にも継続して採用されています。MSCI社*2が2017年7月3日より提供を開始した「MSCI ジャパンESG セレクト・リーダーズ指数」にも組み入れられています。

*1 FTSE Russell社：ロンドン証券取引所グループに所属する、世界的なインデックスプロバイダー。

*2 MSCI社：米国・ニューヨークに拠点を置く金融サービス業。ニューヨーク証券取引所に上場しており、大規模公的年金や資産運用会社、ヘッジファンドという世界中の機関投資家に対して、投資意思決定をサポートする様々なツールを提供しているリーディング企業。



CSRに関する監査への対応

業界行動規範の遵守やお客さまの要請に基づいた第三者機関の実施するCSRに関する監査への対応を行っています。その中で要求基準と当社グループの取り組みとのギャップが確認され、対応すべき課題が抽出されます。監査での指摘事項は真摯に受け止め、原因分析を行い是正処置と予防策を実行し、改善に努めています。抽出された課題を改善していくことで、要請基準に対応したしくみづくりに取り組んでいます。

2017年度も継続して、業界団体の監査基準に対する社内の認定審査員と専門部門による社内の点検、内部監査を進めました。その結果、安全衛生面で緊急時の避難対応に関する指摘を日本国内の事業場で受けており、現在業界団体と話し合いの上対応を進めています。

今後も、良好な遵守率を維持できるよう、各職場で日常的な点検と、運用改善のサイクルを回していきます。また継続的に外部監査を受診することでその有効性を検証し、CSRの取り組みに対する信頼性を高めていきます。